か――スターリング・ロー。これを臨床用にモディファイしたのが心室機能曲線であり、スワン・カテーテル（一九七五）はベッドサイドでこのカーブをプロットする。（なお肺動脈圧カテーテルの開発には、戦中米国フェン（ベイリス・スターリング門下）やクールナンらによる肺研究からの流れがあった。）

（大阪医科大学）

ヘルマン・ブショフの生涯とその業績

ヴォルフガング・ミヒェル

ヨーロッパで最初に東洋医学の灸を詳細に描写した、バタヴィアに住み、牧師をしていたヘルマン・ブショフ Hermann Buschof についてはこれまでのところあまり知られていない。まず、その生涯を簡単に紹介したいと思う。

一六二〇年？　ヘルマン・ブショフ、ユトレヒトに生まれる。

？年　ユトレヒト、またはライデンにて修学。

一六四二年　Zoelen で牧師候補（Proponent）になる。

一六五四年十月五日　VOC の牧師として東インド行きを希望する。

一六五四年十二月十日　De Phoenix 号で出港。

一六五五年六月二十四日　バタヴィア着。
一六五五年七月十四日　台湾へ向けて出港。
一六五五年～一六五七年　Soulang, Bakloan, Tevorang にて宣教活動。学校の監督。
一六五七年一月三十一日　健康不良の兆候が現れる。
一六五七年十一月十九日　健康上の理由による早期転勤を通知。
一六五八年一月二十四日　バタヴィアで牧師に任命される。
六十年代初め　広南出身の女医がブショフの痛風を灸で治療する。その効果に刺激され痛風とその治療薬 Moxa の研究を始める。
一六七四年一月三十日　アムステルダムの Bewintheb-beren に手紙を書く。原稿を推奨し、息子ヘルマンへの援助を頼む。
一六七四年三月十二日　健康上の理由から退任。
一六七四年四月　到着したWillem ten Rhijne と知り合い、日本でもぐさとその使用法を研究するよう勧める。
一六七四年五月十六日　遺書を作成。
一六七四年七月十三日「長患いの後」死亡。
一六七四年七月十四日　埋葬。
一六七五年　ブショフの著書発行される。Het Podagra, Nader als oyt nagevorst en uytgevonden, Midsgader Des selfs sekere Genesingh of ontlastend Hulp-Mittel. Door Hermanus Busshof [....] 't Amsterdam 1675.（一六七六年　英訳版の発行。一六七七年　独語版の発行。）

ブショフの著書は、今日僅かしか残っていないが、その内容については正確な研究がなされていない。私の発表に際しては、その著書について、ブショフの以下の分類に沿って分析を試みたいと思う。

1部　痛風についての記述。

第一章…痛風についての記述。第二章…痛風による体内の腫瘍と、それが多くの場合目につかないこと。第三章…急性及び、慢性痛風の原因について。第四章…痛風を起こす蒸気の性質について。第五章…痛みの起きている体内と痛風を起こす病原体の集積層について。第六章…痛風は手足に起こる一般的な病気で、患部によって病名が付けられ

ている。又は、痛風の病原が生じる所について。第七章…どのようにして、どのような経路で病原体が手足に入るか。第八章…発病箇所について。第九章…痛風の特徴について。第十章…痛風に伴う偶然の現象について。第十一章…痛風の際よく現れる表面の軟腫瘍について。第十二章…麻ひについて。第十三章…瘤腫の結節について。

2部　痛風の治療について。

第一章…痛風の治療一般について。第二章…痛風がMoxaを焼き付けることで治療可能なこと。第三章…この治療薬の用い方とその効用。第四章…Moxaとは何か、またどこで手に入れられるか。第五章…この有効な治療薬はどう用いられるべきか。第六章…焼き付けた後、その箇所をどう扱うか。第七章…焼き付けの驚くべき効果について。第八章…焼き付けが、痛風の治療に用いられているヨーロッパのどの薬よりもはるかに効果的であること。第九章…なぜ、この焼き付けは耐えられるのか。第十章…焼き付けを成功させるため、患者に求められる姿勢について。第十一章…香ばしい棒（線香）とその効用について。第十二章…焼き付けを行うべき箇所について。第十三章…焼き付けを誤った際の損傷、危険性について。第十四章…痛風の際、偶然にできた軟腫瘍と、その治療について。第十五章…瘤腫及び石のように堅い腫瘍の治療について。第十六章…痛風にもいろいろな種類があるのか、それぞれの間に本質的な違いがあるのか。第十七章…痛風を予防する有効な薬。第十八章…歯痛と、歯の痛風の治療について。付記…三件の注目すべき病例。

（九州大学言語文化部）